浅香山病院　精神科専門研修プログラム

（2026 年 4 月開始）

【 専門研修プログラム名 】　浅香山病院精神科専門研修プログラム

【 プログラム統括責任者 】　篠崎　和弘

【　募　集　人　数　】　3　人

【　応　募　方　法　】

必要書類（履歴書・志望理由書・医師免許証(写)〔予定〕）を郵送にて提出してください。(封筒には「専攻医応募書類在中」と記載ください)

なお、詳細及び最新情報は当院ホームページにてご確認ください。

応募書類提出先及び問い合わせ先

〒590-0018　大阪府堺市堺区今池町 3 丁 3 番 16 号

公益財団法人浅香山病院　臨床研究研修センター（経営企画室）　伊東

TEL : 072-229-4882　Mail : asaka@asakayama.or.jp

【　採 用 判 定 方 法　】　書類審査および面接（予定）

公益財団法人 総合病院 浅香山病院

Asakayama General Hospital since 1922

〒590-0018　大阪府堺市堺区今池町 3 丁 3 番 16 号

TEL:072-229-4882　FAX:072-232-3787

http://www.asakayama.or.jp/

Ⅰ　専門研修の理念と使命

１．専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

２．使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

３．専門研修プログラムの特徴

基幹施設である浅香山病院は、1922 年に創立した 967 床（精神病床 744 床、一般病床 223 床）を有する総合病院である。総合病院である機能をいかして、精神科、一般科ともに急性期医療から在宅医療までのトータル医療を提供し、地域医療に貢献している。

精神科専門研修として、急性期治療に関しては、精神科救急病棟（閉鎖病棟）を 2 病棟、急性期病棟（閉鎖・開放病棟）を 1 病棟、認知症急性期治療病棟を 1 病棟もっており、精神運動興奮状態の強い患者や自殺念慮の強い患者などあらゆる疾患に対応できる。長期入院患者の地域移行支援も積極的に取り組んでおり、自立するための生活訓練施設なども併設している。さらに就労支援事業として、就労移行支援、就労継続 A 型、就労継続 B 型を展開し、社会復帰を支援する体制を整えている。外来治療に関しては、1 日約 150 人の外来診察を行っており、あらゆる精神疾患の治療に取り組んでいる。認知症治療については、認知症疾患医療センターの認可を受けており、地域の開業医からの紹介を受け、鑑別診断、治療指針を決め、連携をとっている。院内において、脳波、CT、MRI のみでなく SPECT、MIBG シンチ、DAT スキャン、エコー検査等も実施することができ、より精度の高い診断が可能となっている。また、認知症初期集中支援チームも 2015 年より稼動している。

総合病院の機能をいかして、精神科身体合併症病棟を 1 病棟有しており、身体科医師の協力のもと、一般病棟で対応の困難な精神疾患を併発した患者の治療を行うとともに、身体科におけるリエゾン・コンサルテーション（緩和ケア病棟含）も積極的に行っている。薬物療法についても、向精神薬のほぼ全種類の使用が可能である。また難治性統合失調症治療においては、クロザピンの使用も行う体制を整えており、2016 年より修正型電気けいれん療法、2020 年より rTMS（経頭蓋磁気刺激療法）を実施している。

専攻医は、外来治療に関しては、初診患者の問診を行い、指導医の診療に陪席する。急性期入院患者の主治医となり、指導医からマンツーマンで指導を受けることにより、的確な診断と治療を学ぶことができ、看護師、公認心理師、精神保健福祉士、作業療法士、薬剤師、栄養士など多職種とのチーム医療を経験する。各精神疾患に対して、画像診断をはじめとする検査や心理検査を行い、薬物療法、個人精神療法、心理社会

的療法などの治療を柔軟に組み合わせ、適切な治療方法を学んでいく。

連携施設としては、**大阪公立大学医学部附属病院**においては、大学病院の機能を生かして臨床での疑問を如何に研究に結び付けていくかの研修が可能である。児童から老年期まで幅広い年齢層にわたって多彩な精神疾患を有する患者の研修が可能である。大都市の大学病院でもあり、産業精神医学にも力をいれている。**近畿大学病院**では、外来診療において豊富な症例とともに質の高い専門的な研修が経験でき、児童思春期や認知症分野では専門外来による診療を行っている。**大阪市立総合医療センター**では、児童思春期を中心に研修予定であるが、希望に応じて、成人の症例やリエゾン・コンサルテーション、緩和ケア、合併症治療を学ぶことも可能である。**大阪精神医療センター**では、公的精神科単科病院であり急性期医療から社会復帰まで、児童思春期から高齢者までと様々な精神疾患を有する患者の研修が可能である。更には司法精神医学や児童思春期、依存症診療も専門的に学ぶことができる。**大阪急性期・総合医療センター**では、３次救急の現場での症例を経験し、精神科合併症救急、リエゾン・コンサルテーション症例について貴重な経験ができる。**浜寺病院**は、地域（高石市）の中核を担っている単科精神科病院であり、地域医療とともに、アルコール依存症などの依存症圏内の疾患を中心に研鑽できる。**三国丘病院**は堺市の中心に位置し、外来診療を積極的に行い、児童・思春期、成人、壮年、高齢者と幅広い年齢層に対応している。特に児童・思春期に注力しており、小児精神医学を中心に研修が可能である。**和泉中央病院**では、急性期治療、認知症治療をはじめ、地域医療の中での精神科医療を学ぶ。**丹比荘病院**では、精神科臨床一般に加え、特殊性のある疾患（不安症、感情障害、認知症、児童思春期、アルコール依存症など）の研修が可能である。上記の病院をローテートすることにより、あらゆる精神疾患の治療に対応できる精神科専門医として必要な知識、技術を経験できると考える。

II.　専門研修施設群と研修プログラム

１．プログラム全体の指導医数・症例数

■　プログラム全体の指導医数：75 人

■　昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	4,106	932
F1	991	404
F2	7,431	2,113
F3	7,663	1,226
F4　F50	6,647	403
F4 F7 F8 F9 F50	7,452	568
F6	839	144
その他	1,028	133

２．連携施設名と各施設の特徴

Ａ　研修基幹施設

・施設名：公益財団法人　浅香山病院

・施設形態：総合病院

・院長名：田原　旭

・プログラム統括責任者氏名：篠崎　和弘

・指導責任者氏名：篠崎　和弘

・指導医人数：（　12　）人

・精神科病床数：（　744　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1,366	354
F1	47	40
F2	1,484	721
F3	924	269
F4　F50	341	44
F4 F7 F8 F9 F50	5	2
F6	37	10
その他	145	52

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

許可病床数 967 床、そのうち内科、外科などの一般病床が 223 床、精神科病床 744 床の総合病院である。救急医療としては、内科２次救急、精神科救急をおこなっている。

精神科においては、救急病棟、合併症病棟、認知症病棟、慢性期療養病棟と機能的に分類され、措置入院医療を含む急性期治療全般にわたり幅広く学ぶことができる。公認心理師による心理テスト、心理療法も行っており、精神保健福祉士、看護師などを含めた多職種との病棟カンファレンスを通じて、チーム医療を経験できる。難治性統合失調症に対してクロザピン治療を行うことも可能であり、2016 年より修正型電気けいれん療法、2020 年より rTMS（経頭蓋磁気刺激療法）も施行している。

一般科医とも連携し、身体合併症入院治療とともに、院内一般科の入院患者の精神症状に対するリエゾン・コンサルテーションも積極的に行っており、緩和ケア医療の関わりも可能である。司法精神医学においては指導医とともに鑑定現場に行ったり、医療観察法の通院治療を指導医とともに研修することが可能である。画像検査においては、頭部 CT、MRI、SPECT、MIBG シンチ、DAT スキャン等が院内の施設で実施可能で、放射線科医の所見により、専門的に学ぶことができる。

また、デイケア・ナイトケア、訪問看護ステーション、作業療法、就労支援事業、生活訓練施設なども併設しており、地域生活に密着した診療に積極的に取り組んで

いる。医局員による講義、ケースカンファレンスを通して、知識の修得とともに症例への理解を含め、薬物療法、精神療法的関与について学び、学会発表を行うように指導を受ける。

B　研修連携施設

①　施設名：大阪公立大学医学部附属病院

・施設形態：大学病院
・院長名：中村　博亮
・指導責任者氏名：井上　幸紀
・指導医人数：（　10　）人
・精神科病床数：（　38　）床
・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	233	23
F1	61	8
F2	515	53
F3	763	72
F4　F50	826	49
F4 F7 F8 F9 F50	462	20
F6	142	19
その他	123	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

大阪公立大学(2022 年 3 月まで大阪市立大学)神経精神科は講座開設以来 70 年を超える歴史と伝統をもち、臨床から研究に至る幅広い領域において精神医学の発展に寄与してきた。基幹病院となる大阪公立大学医学部附属病院神経精神科は 38 診療科 965 床を有する大学病院精神科部門であり、本邦トップクラスの年間外来新患数の大規模な都市型精神科医療機関である。児童から老年期まで幅広い年齢層にわたって多彩な精神障害を有する患者の受診が特色である。一般的に大学病院や精神科病院における患者は中高齢層に偏りがちであるが、当院では若年層についても豊富な臨床経験を積むことができる。38 床の閉鎖病棟は、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどの症例に対応している。

専攻医は入院および外来患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護職、心理職、精神保健福祉士とチームを組み、各種精神障害に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気痙攣療法などを柔軟に組み合わせ最善の治療を行っていく。研修の過程でほとんどの精神障害、治療についての基礎的

な知識を身につけることが可能であり、専門医と同時に、精神保健指定医等(以下Subspeciality 領域との連続性に記載)を目指す専攻医の症例報告や学会発表を指導・支援する体制を整えている。

またリサーチマインドの獲得を推進すべく、大学院へ進学し医学博士号の取得が可能な研究支援体制も有する。都市型医療機関という特性を活かした臨床研究を中心に行っており、産業精神医学的立場より就労者の職業性ストレスとうつ病などのメンタルヘルスに関する研究、摂食障害の臨床的研究、認知症の神経画像や精神症状に関する臨床的研究、児童青年精神医学領域における臨床的研究などの研究を多方面に行っている。また産学連携、精神科リエゾンチームを含めて他診療科との臨床および研究連携も盛んであるため、専攻医は精神医学に留まらず、メンタルヘルス全般を学ぶことができる。

② 施設名：近畿大学病院

・施設形態：大学病院
・院長名： 東田　有智
・指導責任者氏名：橋本　衛
・指導医人数：（　7　）人
・精神科病床数：（　0　）床
・疾患別外来数（入院はありません）

疾患	外来患者数（年間）
F0	488
F1	47
F2	1568
F3	2063
F4　F50	2063
F4 F7 F8 F9 F50	370
F6	23
その他	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

31 診療科、923 床を有する大学病院であるが、精神科病床はない。外来診療では、気分障害圏、神経症圏、認知症については豊富な症例とともに質の高い専門的な研修を経験できる。さらに、児童思春期精神障害については専門外来による診療を行っており、認知症に対しては、アミロイド PET をはじめとする最新の画像診断を取り入れた専門外来がある。入院診療では、身体科に入院した患者に求められる精神科治療（コンサルテーション・リエゾン）を活発に行っており、緩和ケアや救命救急センターにおける自殺企図者への対応にも積極的に関与している。

② 施設名：大阪市立総合医療センター

・施設形態：公立病院（地方独立行政法人）

・院長名：西口　幸雄

・指導責任者氏名：甲斐　利弘（精神神経科研修担当）
宮脇　大（児童青年精神科研修担当）

・指導医人数：（　10　）人

・精神科病床数：（　55　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	611	36
F1	45	9
F2	766	211
F3	985	167
F4　F50	947	64
F4 F7 F8 F9 F50	611	76
F6	365	66
その他	10	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

大阪市立総合医療センターは、許可病床数は 1,063 床、57 の診療科を擁し、精神医療、がん医療、小児医療、周産期医療、3 次救急と小児 3 次救急医療機関、感染症指定医療機関であるほか、災害医療などの政策医療も担っている大阪府の中核病院である。18 歳以上を対象とする精神神経科病棟と、18 歳未満を対象とする児童精神科病棟の 2 科・2 病棟から構成され、「2 歳から 100 歳まで」の全年齢層に精神科医療を提供している、全国でも類を見ない総合病院である。

本プログラムは、1 年目から精神神経科および児童青年精神科の両科で研修を行う。2 年目は連携施設 2 箇所で 6 か月ずつ研修し、3 年目は再び児童青年精神科および精神神経科の両科で、「2 歳から 100 歳まで」の精神科診療ができるように、より深く研鑽を積む。これを基本プログラムとしながらも、専攻医それぞれの希望に合わせて、より柔軟に研修プログラムを運用している。ある専攻医は、プログラム修了後に児童精神科医になることを目指し、3 年目を児童青年精神科中心に研鑽を積む。ある専攻医は総合病院精神医学の専門医を目指し、精神神経科を中心に研修する。別の専攻医は、全年齢を診療できるバランスの取れた精神科医を目指し、両科を均等に研修する。このように、精神科専門医および精神保健指定医はもちろん、サブスペシャリティとして総合病院精神科専門医、子どものこころの専門医などの取得に必要な症例を経験することも可能である。

③　施設名：大阪精神医療センター

・施設形態：公的精神科単科病院（地方独立行政法人）

・院長名：岩田　和彦

・指導責任者氏名：西倉　秀哉

・指導医人数：（　13　）人

・精神科病床数：（　473　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	146	46
F1	300	137
F2	1422	453
F3	853	169
F4　F50	1282	119
F4 F7 F8 F9 F50	4295	306
F6	150	16
その他	145	8

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

大阪府の公的精神科単科病院として 90 年の歴史を有し、急性期から社会復帰まで、さらに小児から高齢者まで、様々な精神疾患の診療を担っている。スーパー救急病棟（78 床）では措置入院を含む多くの非自発的入院症例を経験でき、統合失調症圏や気分障害圏などの急性期治療を学ぶことができる。さらに医療観察法病棟（33 床）、児童思春期病棟（50 床）を有し、司法精神医学や児童思春期精神医学領域の研修も可能である。難治性精神疾患を受け入れ、修正型電気けいれん療法やクロザピン治療を行うとともに、依存症治療拠点医療機関に指定されており、依存症治療にも取り組んでいる。また保健所や地域生活支援センターなどの地域の関係機関と連携しながら、精神障害をもつ人の退院支援を積極的に行っている。在宅医療室では年間延べ 5000 件以上のアウトリーチ活動を実施しており、慢性期症例の地域生活支援も研修することができる。

④　施設名：大阪急性期・総合医療センター

・施設形態：公的総合病院（地方独立行政法人）

・院長名：嶋津　岳士

・指導責任者氏名：松田　康裕

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　34　）床

・疾患別入院数（年間）

疾患	入院患者数（年間）
F0	32
F1	6
F2	32
F3	28
F4　F50	13
F4 F7 F8 F9 F50	12
F6	0
その他	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

高度救命救急センターを含む 29 診療科、865 床を有する公的基幹総合病院であり、精神科閉鎖病棟（34 床）を有している。精神科は高度救命救急センターと密に連携しており、救命救急医療の現場での精神科診療を十分に体験できる。また、ほぼすべての診療科の協力を得ながら、身体合併症患者の治療を積極的に行っており、一人の患者を複数の診療科で診る経験を重ねることにより、チーム医療の重要性を学ぶことができる。年間の初診は 975 件で、うち他科病棟への往診は 732 件である。往診では、一般病棟におけるせん妄・抑うつ・認知症等への対応、および、緩和ケア医療を学ぶことができる。

⑤　施設名：医療法人微風会　浜寺病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：木岡　哲郎

・指導責任者氏名：山内　常生

・指導医人数：（　6　）人

・精神科病床数：（　648　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	262	130
F1	300	142
F2	440	154
F3	232	102
F4　F50	111	12
F4 F7 F8 F9 F50	30	6
F6	24	8
その他	13	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

急性期の精神運動興奮などの激しい行動を伴う患者の治療(精神科急性期治療病棟;F1-F4)を行うとともに、デイケア等の精神科リハビリテーションを体験し、慢性の精神疾患患者への総合的な治療を習得する。認知症治療病棟での、認知症（F0）　に伴う精神症状への治療を行うとともに、退院後地域での他職種との協働の中で、　リハビリテーション、訪問看護、等の幅広い治療ケアを習得する。

重度アルコール症治療について研修：

重度アルコール症治療病棟で、症例を担当し、治療プログラム作成から、地域の断酒会への参加までを経験して、アルコール症の専門的治療について学ぶ。

司法精神医学の研修：

措置鑑定の見学、ならびに簡易鑑定及び医療観察法による鑑定入院に鑑定助手として参加し、鑑定医の鑑定書作成に参加する。

⑥　施設名：医療法人サヂカム会　三国丘病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：河口　剛

・指導責任者氏名：河口　剛

・指導医人数：（　6　）人

・精神科病床数：（　144　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	120	52
F1	78	9
F2	384	148
F3	962	224
F4　F50	705	61
F4 F7 F8 F9 F50	856	72
F6	26	4
その他	167	11

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

　ベッド数の少ない都市型の精神科病院である。外来診療を中心とし、児童・思春期、成人、壮年、高齢者と幅広い年齢層に対応しており、疾患は F3、F4 を筆頭に、多彩な症例を全般的に経験することができる。児童精神科の標榜もしており、発達障害の診療も積極的に行っている。児童・思春期症例の治療を体験することも可能である。デイケア、精神科訪問看護や心理士による心理テスト、心理療法、青年期の SST やペアレントトレーニングなども行っている。併設のクリニックは児童期の診療に特化し、不登校児のショートケアを行っている。児童相談所や教育機関との連携も多い。また、産業メンタルヘルスにも取り組んでおり、休職者・復職者の診療も行なっている。患者の地域生活に密着した精神科診療に積極的に取り組んでおり、多職種との連携を通して、精神科におけるチーム医療の実際に関与することもできる。

〔併設施設〕

　サテライトクリニック、精神科デイケア・ショートケア、グループホーム

⑦　施設名：医療法人貴生会　和泉中央病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：生谷　昌弘

・指導責任者氏名：生谷　昌弘

・指導医人数：（　4　）人

・精神科病床数：（　206　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	670	210
F1	20	10
F2	360	130
F3	370	80
F4　F50	330	40
F4 F7 F8 F9 F50	120	30
F6	60	20
その他	10	5

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は精神科２０６床の単科精神科病院である。最寄り駅にメンタルクリニックを開設して連携している。地域の精神医療を支えることを理念とし、統合失調症・感情障害・認知症・神経症などの急性期から在宅での生活支援まで、ＰＳＷ・公認心理師・作業療法士・看護師などとチームで活動しており、精神医療全般を広く学ぶことができる。入院部門として急性期治療病棟と認知症治療病棟、二つの精神療養病棟があり、夜間休日を含めて常時指定医が勤務し、地域の救急医療(精神科輪番、精神科身体合併症ネットワーク)に協力している。医療保護入院　措置入院　行動制限などの症例や、退院促進についても学ぶことができる。外来部門は一般外来(予約制)、カウンセリング(自費)、デイケア・デイナイトケア・重度認知症デイケア･訪問看護(２４時間)に加えグループホーム･生活訓練施設があり、在宅支援　精神科リハビリについて学ぶことができる。専門外来として物忘れ外来を実施しており、ＭＲＩ　神経心理検査を実施している。地域の医師会と協力して認知症予防のための相談会を実施し学会発表を行っている。また、メンタルクリニック、リハビリテーションセンターにおいては、主にうつ病、神経症圏の患者の症例　心理教育　就労支援を学ぶことができる。院内のＩＴ化にも努めており電子カルテ・オーダリング・無線ＬＡＮ環境を整備し、ＭＲＩなどの画像システム・臨床検査（院内でほぼ可能）のデータの取り込み管理も一元化されている。

⑧　施設名：医療法人丹比荘　丹比荘病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：池谷　俊哉

・指導責任者氏名：池谷　俊哉

・指導医人数：（　5　）人

・精神科病床数：（　310　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	210	49
F1	93	43
F2	492	211
F3	511	115
F4　F50	42	1
F4 F7 F8 F9 F50	703	44
F6	12	1
その他	415	57

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は一般精神科は勿論ですが、近年増加傾向にある不安症、感情障害、認知症、児童思春期精神疾患などの特殊性のある疾患に対しても対応できる精神科的総合病院になりたいと考えています。当院はベッド数３１０床ですが、医師が一人一人の患者とゆっくり向い合いながら診療を行えるよう、常勤医１３名、非常勤医師５名、合計１８名の多くの医師を確保しています。１８名の医師のうち精神保健指定医１４名、精神科専門医１３名と経験豊かな医師が勤務しています。時間的に一人一人の患者に時間をかけて接するだけでなく、これらの医師が独自の専門領域を有し、それぞれの得意分野で新しい薬物療法や治療方法を学ぶために学会や研究会に積極的に参加し、新しい知見に触れ診療スキルの向上に努めています。このような専門性を活かすために、ストレス社会の中で増加しているパニック症、職場メンタルヘルスに関する専門外来、男性の医師には相談し難いという患者には女性外来、高齢者対応のもの忘れ外来、そして精神科の中では最も専門性が高く、まだまだエキスパートが少ない児童思春期外来などの専門外来を開き、地域のみならず大阪市からも多数の患者が受診しています。また団塊の世代が退職し、今後増加していくと思われるアルコール依存症に対する入院加療も行っています。

３．研修プログラム

１）年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。

1）患者及び家族との面接／2）疾患の概念と病態の理解／3）診断と治療計画／4）補助検査法／5）薬物・身体療法／6）精神療法／7）心理社会的療法、精神科リハビリテーション、及び地域精神医療・保健・福祉／8）精神科救急／9）リエゾン・コンサルテーション精神医学／10）法と精神医学（鑑定、医療法、精神保健福祉法、心神喪失者等医療観察法、成年後見制度等）／11）医の倫理（人権の尊重とインフォームド・コンセント）／12）安全管理・感染対策。

各年次の到達目標は以下の通りである。

【1 年目】基幹病院（もしくは連携病院）で、指導医と一緒に、統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・コンサルテーション精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。急性期及び慢性期の入院患者を指導医と共に受け持つことによって、行動制限の手続きなど、基本的な法律の知識を学習し、チーム医療を経験する。外来業務では初診患者の問診を行ったり、指導医の診察に陪席することにより、診断・治療計画の立て方、面接の技法、患者との関係の構築の仕方、基本的な心理検査の評価などについて学習する。また指導医の指導のもと認知症の鑑別を行うことで、脳波、頭部 CT、頭部 MRI、SPECT、MIBG シンチ、DAT スキャン等の画像検査や神経心理検査を学び、鑑別診断、治療指針を決定することが可能になることを目指す。デイケア、作業療法などの精神科リハビリテーションを経験し、修正型電気けいれん療法の補助も行う。院内のケースカンファレンスや浅香山病院精神科研究会で発表・討論する。上記を通して精神科臨床の基礎を幅広く学ぶ。

【2 年目】連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させていく。神経症性障害および依存症患者の診断・治療、児童思春期の症例、リエゾン・コンサルテーション精神医学、地域精神医療など個々の連携病院の専門性に応じた研修を経験することで、より深い知識を習得し、引き続き精神療法の修練を行う。院内のカンファレンスで発表し討論を行い、機会があれば近畿精神神経学会での発表の機会をもつ。

【3 年目】基幹病院にて研修を行い、指導医から自立して診療できるようにする。精神科救急に従事して対応の仕方を学び、パーソナリティ障害の診断・治療を経験する。力動的精神療法を上級者の下に学んだり、心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療などを学ぶ。リエゾン・コンサルテーションや地域医療の現場に足を運ぶことで、他職種との関係を構築する重要性を経験していく。外部の学会・研究会などで症例発表する。

２）研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」、「研修記録簿」を参照。

３）個別項目について

①倫理性・社会性

基幹施設においては、総合病院という性格上、身体科医師との交流もあり、精神科的な視野のみならず、広く身体科的な医療への倫理観、社会性を身につける。また多職種の中で、それぞれの職種の患者への取り組み方を学ぶことにより、精神科医療全体の中で、医師の果たす役割について認識することができる。

②学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研磨自己学習することが求められる。指導医の指導並びに研修期間を通じて経験した症例を院内のケースカンファレンスで発表することを基本とし、その過程で類似症例に対して文献的に調査するなど自ら考えていく姿勢が必要である。その中で興味深い症例に関しては、浅香山病院精神科研究会、近畿精神神経学会、日本精神神経学会学術総会などにて発表を行う。

③コアコンピテンシーの習得

日本精神神経学会などの学会、研究会への参加を通じて、医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身につけるべき基本的な態度を研修し、基本的診療能力を高めるようにする。また、法と医学の関係性については、精神保健福祉法、医療観察法などの現場での運用を指導医とともに履修をしていく。また、診断書、証明書など医療に必要な書類の書き方についても学んでいく。精神科臨床に必要な治療関係の構築を多職種チーム医療の中で習得をする。

④学術活動（学会発表、論文の執筆等）

歴史のある基幹施設において、さまざまなテーマについての臨床研究に従事し、その成果を学会や論文として発表する。

⑤自己学習

医局員による精神医学の幅広い領域にわたる講義を定期的におこなうことにより、総論から各論にいたるまでの医学知識を吸収することができ、それにより自己学習への意欲がわくようになる。また文献検索システムも医局内に整備しており、必要な情報はインターネットを介して調べることができる。

4）　ローテーションモデル

専攻医研修マニュアルに沿って各施設を下記のようにローテートし、研修を行う。

初年度：浅香山病院

2 年度：連携病院

3 年度：浅香山病院

【連携病院】大阪公立大学医学部附属病院、大阪市立総合医療センター、
大阪精神医療センター、大阪急性期総合医療センター、浜寺病院、
三国丘病院、和泉中央病院、丹比荘病院

初年度は基幹病院である浅香山病院より開始し、患者及び家族との面接技法、疾患の概念と病態理解、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法、リハビリテーションの基礎を学ぶ。関連法規に関する基礎知識を学習する。

2 年度は連携病院、3 年度は基幹病院である浅香山病院をローテートすることで、精神科救急医療、身体合併症治療、コンサルテーション・リエゾン、緩和医療、児童・思春期症例、認知症症例、アルコール依存症症例、地域精神医療など幅広く経験する。コメディカルや他科医師と協力した治療を経験することでチーム医療の重要性を学び、精神療法及び薬物療法、修正型電気けいれん療法などの治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていき、症例発表に取り組む。

連携病院のローテートに関しては、研修期間において 2 病院もしくは 3 病院（基幹病院である浅香山病院を除く）、1 連携病院につき半年～1 年の期間を想定している。浅香山病院では児童・思春期症例経験数が限られているため、児童思春期症例の経験を得るために大阪公立大学医学部附属病院、大阪市立総合医療センター、大阪精神医療センター、三国丘病院、丹比荘病院いずれかのローテートを考えているが、他の連携病院のローテートに関しては専攻医のニーズに応じて相談することは可能である。主なローテーションモデルについて、【別紙１】に示す。

5）　研修の週間・年間計画

いずれの施設においても、就業時間が週 40 時間を越える場合は、専攻医との合意の上で実施される。なお、週間・年間予定は【別紙 2】を参照。

４．　プログラム管理体制について

・専門研修プログラム管理委員会

- 委員長　医師：篠崎　和弘
- 医師：谷口　典男
- 医師：須藤　良隆
- 医師：田中　秀樹
- 医師：正木　慶大
- 医師：出口　裕彦（大阪公立大学医学部附属病院）
- 医師：甲斐　利弘（大阪市立総合医療センター精神神経科）
- 医師：宮脇　大（大阪市立総合医療センター児童青年精神科）
- 医師：西倉　秀哉（大阪精神医療センター）
- 医師：松田　康裕（大阪急性期・総合医療センター）
- 医師：山内　常生（浜寺病院）
- 医師：河口　剛（三国丘病院）
- 医師：生谷　昌弘（和泉中央病院）
- 医師：池谷　俊哉（丹比荘病院）
- 看護師：森脇　登志
- 作業療法士：岡本　健
- 精神保健福祉士：比良　美千代
- 事務：丸　晋一郎
- 事務：伊東　澄仁
- 事務：松尾　小枝子

・プログラム統括責任者

- 篠崎　和弘

・連携施設における委員会組織

・各連携施設の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

５．　評価について

１）評価体制

専攻医に対する指導内容は、統一された専門研修記録簿に時系列で記載して、専攻医と情報を共有するとともに、プログラム統括責任者（篠崎　和弘）および専門研修プログラム管理委員会で定期的に評価し、改善を行う。

各施設の評価者

公益財団法人　浅香山病院：篠崎　和弘
大阪公立大学医学部附属病院：出口　裕彦
大阪市立総合医療センター：甲斐　利弘（精神神経科）
宮脇　大（児童青年精神科）

大阪精神医療センター：西倉　秀哉
大阪急性期・総合医療センター：松田　康裕
医療法人微風会　浜寺病院：山内　常生
医療法人サヂカム会　三国丘病院：河口　剛
医療法人貴生会　和泉中央病院：生谷　昌弘
医療法人丹比荘　丹比荘病院：池谷　俊哉

２）評価時期と評価方法

・　３か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、専門研修プログラム管理委員会に提出する。
・　研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ６か月ごとに評価し、フィードバックする。
・　１年後に１年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
・　その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

３）研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年１回行う。浅香山病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムによる評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に１回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を終了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年１回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

６．　全体の管理運営体制

１）　専攻医の就業環境の整備（労務管理）

専攻医の就業はそれぞれの研修施設の就業規則に則って行われるが、就業環境の整備が必要な時は、各施設の労務管理者が適切に行う。

２）　専攻医の心身の健康管理

施設で行われる定期健康診断(年１回)のほかに、心身の不調がある時は、研修指導医を通して、しかるべき部署で対応する。

３）　プログラムの改善・改良

プログラムの点検、評価、ならびに改善・改良は、各研修施設で定期的に行うが、全体として改善・改良の必要がないかどうかを、基幹病院のプログラム統括責任者と連携施設の指導責任者によってつくられるプログラム管理委員会で検討し、継続的な改良を実施する。

４）　ＦＤの計画・実施

研修基幹施設のプログラム統括管理責任者は、研修施設群の専門研修指導医に対して講習会の終了や FD への参加記録などについて管理する。

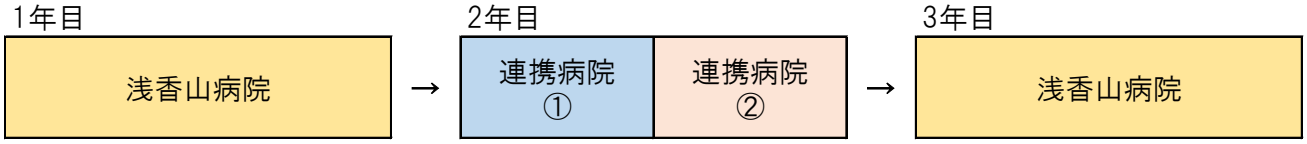
【 別紙１ 】

基本的なローテーションモデルとしては、1 年目は浅香山病院、2 年目は連携病院、3 年目は浅香山病院とするが、専攻医のニーズに応じて柔軟にローテーションを調整する。なお、原則としては 2 つ以上の連携病院（1 ヵ所につき 6 ヵ月以上）にて 2 年目以降に研修することとするが、状況によっては 1 年目となる場合もある。

なお、連携病院は次の 8 施設であり、専攻医のニーズや症例に応じて調整を行う。

◇大阪公立大学医学部附属病院　◇大阪市立総合医療センター　◇大阪精神医療センター
◇大阪急性期･総合医療センター　◇三国丘病院　◇浜寺病院　◇和泉中央病院　◇丹比荘病院

〔基本ローテーション〕



いずれの施設においても、就業時間が週 40 時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

【 別紙２ 】

浅香山病院　週間計画

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td>電気けいれん療法研修</td><td>デイケア</td><td rowspan="2"></td><td>電気けいれん療法研修</td><td rowspan="2"></td><td>勉強会（精神療法、脳波・画像判読、器質性精神障害）</td></tr>
<tr><td colspan="4">病棟業務、週１回外来業務（認知症疾患医療センター）</td><td>症例検討カンファレンス、医局会（隔週）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">午後</td><td colspan="5">病棟業務（リエゾン・コンサルテーション含）</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>症例検討カンファレンス、医局会（隔週）</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

※平日（月～金）の間に週１日の研修日有

浅香山病院　年間計画

４月	オリエンテーション １年次専攻医研修開始 ２年次、３年次専攻医研修報告書提出 指導医研修実績報告提出
５月	
６月	精神神経学会学術総会参加（必須） 日本老年精神医学会参加（任意）
７月	近畿精神神経学会参加（必須） 日本うつ病学会学術総会参加（任意） 浅香山病院精神科研究会参加（必須）
８月	
９月	日本児童青年精神医学会総会参加（任意）
１０月	日本精神科救急学会学術総会参加（任意） 日本認知症学会学術集会参加（任意）
１１月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意）
１２月	
１月	
２月	近畿精神神経学会参加（必須） 日本不安症学会学術大会参加（任意） 浅香山病院精神科研究会参加（必須）
３月	日本統合失調症学会学術総会参加（任意） 研修プログラム評価報告書作成 １年次、２年次、３年次専攻医研修報告書

大阪公立大学医学部附属病院　神経精神科　週間計画

	月	火	水	木	金
9:00 12:00	外来予診･陪審 病棟業務	外来予診･陪審 病棟業務	外来予診･陪審 病棟業務	外来予診･陪審 病棟業務	外来予診･陪審 病棟業務
13:00 14:00 16:00 17:00	病棟業務 リエゾン精神医学の症例提示と検討会 （原田：4-6 月、10-11 月） 摂食障害の症例提示と検討会 （山内：4-6 月、10-11 月） 大学院グループ勉強会	病棟業務 統合失調症の症例提示と検討会 （影山：4-6 月、10-11 月） 気分障害の症例提示と検討会 （出口：4-6 月、10-11 月） 大学院グループ勉強会	病棟業務 教授回診 医局会 症例検討会 論文抄読会 専門医試験関連講義 スタッフ講義 （5-7、11-1 月） 大学院グループ勉強会 外来症例検討会	病棟業務 神経症の症例提示と検討会 （黒住：4-6 月、10-11 月） 認知症の症例提示と検討会 （丸田：4-6 月、10-11 月） 大学院グループ勉強会	病棟業務 児童青年期の精神障害の症例提示と検討会 （平井：4-6 月、10-11 月） 大学院グループ勉強会

大阪公立大学医学部附属病院　神経精神科　年間計画

4 月	オリエンテーション、精神医学系統講義 専攻医 1 研修開始 専攻医 2・3 の前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5 月	日本産業衛生学会参加（任意）、スタッフ，CP，PSW による専門講義
6 月	同門会勉強会参加（必須）　スタッフ，CP，PSW による専門講義 日本精神神経学会学術総会参加（任意） 日本産業精神保健学会参加（任意） 日本老年医学会参加（任意）
7 月	近畿 12 大学合同研修参加（必須）、スタッフ，CP，PSW による専門講義 日本うつ病学会参加（任意）
8 月	近畿精神神経学会で演題発表
9 月	大阪薬物療法研究会参加（必須） 日本生物学的精神医学会（任意）
10 月	日本摂食障害学会学術集会参加（任意）　精神医学系統講義 日本アルコール・アディクション医学会学術集会参加（任意） 日本児童青年精神医学会学術集会参加（任意） 日本認知・行動療法学会参加（任意）
11 月	日本森田療法学会参加（任意）、スタッフ，CP，PSW による専門講義
12 月	研修プログラム管理委員会開催、スタッフ，CP，PSW による専門講義 日本認知症学会学術集会参加（任意）
1 月	スタッフ，CP，PSW による専門講義
2 月	近畿精神神経学会で演題発表（必須） 身体疾患とメンタルヘルス研究会参加（他科との連携、必須）
3 月	専攻医 1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 先進医療ジョイントカンファレンス参加（兵庫医大との共催、必須）

近畿大学病院　週間計画

曜日	時間	内容
月曜日	9：00～10：00 10：00～12：00 13：00～16：00 16：00～17：30 18：00～	リエゾン診療 リエゾンカンファレンス リエゾン診療 症例検討会・医局会 心理検査勉強会
火曜日	9：00～12：00 13：00～17：15	外来予診・入院診療 入院診療・リエゾン診療
水曜日	9：00～12：00 13：00～17：15	外来予診・入院診療 入院診療・リエゾン診療
木曜日	9：00～12：00 13：00～17：15	外来予診・入院診療 入院診療・リエゾン診療
金曜日	9：00～12：00 13：00～17：15	外来予診・入院診療 入院診療・リエゾン診療
土曜日	9：00～11：00 11：00～12：45	リエゾン診療 認知症講義・脳波勉強会

近畿大学病院　年間計画

4 月	オリエンテーション、SR1　研修開始 SR2・3　前年研修報告書提出、指導医の指導実績報告提出
5 月	SR3 研修報告会
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会総会参加（任意）
7 月	近畿地区精神科合同卒後研修講座参加
8 月	近畿精神神経学会参加 日本精神科診断学会総会参加（任意）
9 月	日本生物学的精神医学会総会参加（任意）
10 月	教室研究会参加 日本児童青年精神医学会総会参加（任意） 日本臨床精神神経薬理学会総会参加（任意）
11 月	日本認知症学会総会参加（任意） 日本総合病院精神医学会参加（任意）
12 月	研修プログラム管理委員会開催 日本高次脳機能障害学会総会参加（任意）
1 月	
2 月	近畿精神神経学会参加（任意）
3 月	SR1・2・3 研修報告会、研修プログラム評価報告書の作成

大阪市立総合医療センター（精神神経科）週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th></tr>
<tr><td>8:45～12:00</td><td colspan="5">病棟業務、mECT 補助業務（火曜・金曜）、外来業務（週 1.5 回程度）、
リエゾン・コンサルテーション初診業務（週 2 回程度）</td></tr>
<tr><td>13:00～13:30</td><td colspan="5">リエゾン・コンサルテーション・カンファレンス</td></tr>
<tr><td>13:30～16:00</td><td colspan="5" rowspan="2">病棟およびリエゾン・コンサルテーション業務</td></tr>
<tr><td>16:00～17:15</td><td></td><td>緩和医療
カンファレンス</td><td></td><td></td><td>入院･リエゾン
カンファレンス</td></tr>
<tr><td>17:15～18:00</td><td colspan="5">第 3 木曜日：合同医局会
その他　適宜　勉強会</td></tr>
</table>

大阪市立総合医療センター（児童青年精神科）週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th></tr>
<tr><td>9:00～12:00</td><td colspan="3">初診外来陪席または多職種ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ</td><td>9:30-10:30
児精医局会
ミニ CC
病棟患者診療</td><td>初診外来陪席
または多職種
ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ</td></tr>
<tr><td>13:00～14:30</td><td colspan="5">病棟患者診療</td></tr>
<tr><td>14:30～15:30</td><td>集団療法
（園芸）</td><td>14:00-16:00
心理検査</td><td>集団療法
（自治会）</td><td>病棟 SST
または
母親面談</td><td>SST
（病棟レク）</td></tr>
<tr><td>15:30～17:15</td><td colspan="5">病棟患者診療</td></tr>
<tr><td>その他
・出張等
・外来ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
・C.C.</td><td></td><td>第 1.3 週午後
大阪市
児童相談所</td><td>11:00-12：00
ﾘｴｿﾞﾝ・ﾗｳﾝﾄﾞ</td><td>14:30-16:00
外来 SST
（小学 4-6 年）</td><td>第 3 週
17:30-20:00
児精事例検討会
（参加任意）</td></tr>
</table>

大阪市立総合医療センター（精神神経科・児童青年精神科）　年間スケジュール

4 月	オリエンテーション 専攻医 1　：　研修開始 専攻医 2、3　：　前年度研修報告書提出 指導医研修実績報告提出
5 月	大阪総合病院精神科研究会（開催時期不定）参加
6 月	日本精神神経学会学術総会　参加 日本老年精神医学会　参加（任意）
7 月	日本総合病院精神医学会有床総合病院精神科フォーラム　参加（任意） 近畿精神神経学会　参加 日本うつ病学会学術総会　参加（任意） 夏季休暇取得可能期間（7 月～9 月）
8 月	全国自治体病院協議会精神特別部会　参加（任意）
9 月	
10 月	日本精神科救急学会学術総会　参加（任意） 日本児童青年精神医学会　参加（任意）
11 月	日本総合病院精神医学会総会　参加（任意） 大阪総合病院精神科研究会（開催時期不定）参加
12 月	年末年始病院休業期間（12 月 29 日～1 月 3 日）
1 月	近畿精神神経学会　参加 全国児童青年精神科医療施設協議会　参加（任意）
2 月	日本不安症学会学術大会　参加（任意）
3 月	日本統合失調症学会学術総会　参加（任意） 研修プログラム評価報告書の作成 専攻医 1、2、3　：　研修報告書作成

大阪精神医療センター　週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土・日
9:00 ～ 12:00	・病棟業務 ・児童思春期ケースカンファ	・m-ECT ・外来初診インテーク	・病棟業務 ・医療観察法病棟カンファレンス	・外来初診インテーク	・m-ECT ・病棟業務 ・スーパー救急病棟ケースカンファレンス	・当直業務／外部の研究会・研修など（適宜）
13:00 ～ 17:00	・スーパー救急病棟ケースカンファレンス	・病棟業務	・病棟業務	・病棟業務	・救急当番	
17:00 ～	・医局会（隔週）		・医局ケースカンファ（クロザピン・m-ECT）			

大阪精神医療センター　年間スケジュール

4 月	オリエンテーション、新規採用者研修
5 月	包括的暴力防止プログラム（CVPPP）研修（4 日間） 院内第 1 回医療安全研修
6 月	日本精神神経学会学術集会参加 日本司法精神医学会参加（任意）、日本老年精神医学会（任意）
7 月	近畿精神神経学会参加 院内 SST・心理教育研修会
8 月	院内第 1 回トピックス研修（内容は各年度当初に決定） 日本うつ病学会参加（任意）
9 月	臨床研究基礎セミナー、臨床研修評価面談（中間）
10 月	臨床研究基礎セミナー 日本精神科救急学会（任意）、日本児童青年精神医学会（任意）
11 月	院内第 2 回医療安全研修 SST 普及協会学術集会（任意）
12 月	日本精神障害者リハビリテーション学会（任意）
1 月	院内第 2 回トピックス研修
2 月	近畿精神神経学会参加 院内研究交流発表会（2 日間）
3 月	日本統合失調症学会（任意）、日本社会精神医学会（任意） 臨床研修評価面談（年度末）
その他	精神科関連の学会、研修会等に積極的に参加する。院内において適宜クルズスを行っている。

大阪急性期・総合医療センター　週間計画

	月	火	水	木	金	土・日・祝
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	オンコール（月 1～2 回）
午後	病棟業務 他科往診 行動制限ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟業務 緊急当番 緩和ｹｱｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟業務 認知症ｹｱｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟業務 他科往診 入院ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 医局勉強会	病棟業務 病棟詰所でのｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	
17 時 30 分以降				オンコール（週 1 回）		

大阪急性期・総合医療センター　年間計画

4 月		
5 月		大阪総合病院精神医学研究会参加（任意）
6 月		日本精神神経学会学術総会参加（任意）
7 月	緩和ケア研修会参加（任意）	近畿精神神経学会参加（任意） 有床総合病院精神科フォーラム参加（任意）
8 月		
9 月		
10 月		
11 月		日本総合病院精神医学会参加（任意）
12 月		
1 月		
2 月		近畿精神神経学会参加（任意）
3 月		

医療法人微風会　浜寺病院　週間計画

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
午前	外来予診	休み	外来予診 院長回診	AL 病棟カンファレンス 外来予診	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務
午後	入退院カンファレンス 病棟業務	休み	司法精神カンファレンス 起訴前簡易鑑定　陪席	院内例会（断酒会） 病棟業務	訪問看護同行 または認知症外来予診	休み

17 時以降、専攻医の希望に応じて堺市および泉州地域の断酒会の例会に参加可（病院職員が同伴）
休みの曜日は相談にて

医療法人微風会　浜寺病院　年間計画

4 月	オリエンテーション	
5 月		
6 月	日本精神神経学会総会参加	日本司法精神医学会（任意）
7 月	近畿精神神経学会（任意）	関西司法鑑定症例検討会（任意）
8 月		
9 月		
10 月	日本アルコール関連問題学会（任意）	
11 月	日本認知・行動療法学会（任意）	
12 月		
1 月	関西司法鑑定症例検討会（任意）	
2 月	近畿精神神経学会（任意）	日本不安症学会（任意）
3 月		

医療法人サヂカム会　三国丘病院　週間計画

	月	火	水	木	金
午前 9：00-12：00	・病棟業務	・外来診療 ・デイケア診察	・病棟業務	・病棟業務	・外来診療 ・デイケア診察
			12：30- 医局会		
午後 1：00-5：00	・外来診療（新患）	・病棟業務	・医局カンファレンス	・外来診療（新患）	・病棟カンファレンス

※ 希望により、下記も可能。

・ 児童精神科クリニック（外来診療、こどもショートケア）。

医療法人サヂカム会　三国丘病院　年間計画

４月	オリエンテーション 研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
５月	
６月	精神神経学会学術総会参加
７月	近畿精神神経学会参加 うつ病学会総会参加（任意）
８月	
９月	児童青年精神医学会総会参加（任意） 症例検討会
１０月	中間評価
１１月	
１２月	
１月	
２月	近畿精神神経学会参加 症例検討会
３月	研修プログラム評価報告書作成

医療法人貴生会　和泉中央病院　週間計画

	月	火	水	木	金
始業前	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス
午前	外来予診 デイケア	外来予診 病棟業務	外来業務	クリニック リハビリ	認知症デイ デイナイトケア
午後	病棟業務 医局会 入退院カンファレンス	訪問看護同行 病棟業務	往診同行 病棟業務	心理教育 ＳＳＴ	病棟業務 作業療法 院内教育研修会(不定期)
	薬剤説明会(不定期)			精神科勉強会	

医療法人貴生会　和泉中央病院　年間計画

４月	オリエンテーション
５月	
６月	精神神経学会参加　老年精神学会参加
７月	日本うつ病学会
８月	
９月	生物学的精神医学会参加
１０月	精神病理学会参加
１１月	大阪府医師会学会参加　発表
１２月	
１月	
２月	
３月	統合失調学会

医療法人丹比荘 丹比荘病院　週間計画

	月	火	水	木	金	土
８：３０～ １２：００	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
１２：００			医局会			
１３：００～ １７：００	外来予診 or 病棟業務	外来予診 or 病棟業務	外来予診 or 病棟業務	外来予診 or 病棟業務	症例検討会	外来予診 or 病棟業務

医療法人丹比荘 丹比荘病院　年間計画

４月	オリエンテーション
５月	
６月	日本精神神経学会学術総会参加
７月	近畿精神神経学会参加
８月	
９月	
１０月	日本児童青年医学会参加（任意）
１１月	
１２月	
１月	
２月	日本不安症学会参加 近畿精神神経学会参加
３月	

いずれの施設においても、就業時間が週 40 時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。